女性９人、級位者 51%

長房囲碁同好会　高橋俊之

1. 発足は９月 24 日

「八碁連」の前身「碁老連」は、平成元年 11 月 21 日に 8 地区の同好会により設立されました。長房同好会の発足はその直前の 9 月 24 日です。八碁連と歩みを同じくし、今年で 30 年目を迎えています。まずは例会や大会の様子、役員を紹介します。

＊　会場

長らく「長房ふれあい館」を利用していましたが、3 年前から 200m ほど南の南浅川の左岸にある「市民センター」に例会場を移しました。活きいき大会を開くにあたり毎年苦労していた部屋の割り振りや駐車場の心配もなくなり、なによりも例会が椅子席になり好評です。

写真１　長房市民センター

＊　会員

発足時の平成元年は 17 人でした。20 年代に入り 30 名を越えるようになり、5 年ほど前から 50 人を越え、ここ 2、3 年は 60 人前後になってきました。

＊　例会

例会は毎週日曜日、13 : 00～17 : 00 に行っています。年間 50 回ほど開催し、参加者は 30 名前後です。会費は前期・後期それぞれ一括 1,800 円を徴収しています。

＊　活きいき大会への参加

特にここ数年参加者が多くなり、昨年は毎回 10 名以上、地元長房大会には 43 名、年間では 197 名が参加しています。なお入賞者は 25 名でした。

＊　会長

初代の城石尚治氏から数え私が 13 人目。これまでの 11 人は２年ないし１年務めてきましたが、平成 4 年度は会長を選出できなかったようです。そのためか平成５年度からの８年間は連続で小西徴氏が任に就きました。

２．居心地良く協力的

長房同好会の特色としては、先ず第一は女性や級位者が多いことです。このことは遠方からの会員の増加にもつながっています。もう一つの特色は役員も一般会員もみな協力的であることです。女性や級位者が多いことを表す 3 つの数字があります。手許にある一番古い平成 20 年度の会員名簿と今年 30 年度の名簿を比べたものです。この 10 年間会員は 28 人から 61 人というように、2 倍強の増加を示しています。

①女性会員　１人（ 4%）----→　９人（15%）　２人は有段者
②級位者　　６人（21%）----→ 31 人（51%）　有段者より多い
③会員の居住地区　9 町会　----→　22 町会　　以下の表参照してください。

	平成 20 年	平成 30 年		
町会別会員数	長房 10	長房　11	めじろ台 3	元本郷 1
	散田　4	散田　9	狭間　2	旭町　1
	千人　4	横川　6	館　2	裏高尾 1
	横川　4	元八王子 5	下恩方 1	高尾　1
	並木　2	城山手 3	千人　1	西淺川 1
	狭間　1	並木　3	諏訪　1	北野台 1
	台町　1	寺田　3	廿里　1	
	館　1	東淺川 3	中野上 1	
	城山手 1			
計	9 町会 28 名	22 町会　61 名		

表１　会員の居住地区の変化

女性や級位者が多いという評判が、遠方の女性や級ランクの人を呼び寄せ、また増えるという好循環をもたらしています。

もう一つの特色「協力的」についてです。会運営のうえで、分業体制がしっかりしていることが挙げられます。しかも、それぞれが自発的に得意分野で活躍していることが雰囲気をよくしています。以下でそのことを記してみます。

＊　事務能力抜群でエクセルを自由に操り、文書や表作りを一手に引き受けている会員がいます。本部や他地区への諸々の受信・発信、年 10 回ほどある内部の大会で使用する対戦記録表や対局票作りで活躍しています。
＊　碁盤・碁石・対局時計から市民センターにある机や椅子の数、これらを常に把握していて、長房にとって最大の行事活きいき大会では設営に関するすべてを引き受け指揮する統括責任者がいます。この会員は、年間 50 回近く例会の会場予約も自発的に引き受け、数年にわたりこの役を務めてくれています。
＊　開講以来 4 年目に入った女性教室の事務・運営をずっと担い続け、年間 30 数回開かれている教室ですが、この担当者はこれまで 3 年半 1 度も休んでいません。
＊　女性教室の講師の一人は、毎回出席し時には教材としてのコピーや棋譜をとる用紙を配るなど精力的に指導に当たっています。活きいき大会でも再三優勝するなど長房の棋力アップに欠かせない人材です。
＊　その他、女性教室の講師は 10 数人いますが、当番表などないにもかかわらず毎回 10 人近くが参加しています。また、例会の会場設営については開始時間前には十分整っています。これは早く来た会員が自主的に準備してくれているからです。役員や一般会員を問わず、皆が協力してくれる同好会です。

３．４年目の女性教室

次ぎに「地域社会とのつながり」や「会員獲得の具体的取組み」についてです。地域社会とのつながりの活動の一環として現在、横川中に 1 人（週 3 日）、横川小に 6 人（週 1 日）指導に通っています。会員獲得の具体的取組みについては特別に対策を講じたことはありませんが、女性や級位者の増加に大きく力があったのは、一人の会員の人間力です。この会員は長年研修会にも属し、そこでも面倒見のよさやコミュニケーション能力を気負わず発揮しています。こうした会員に惹かれて、さらに一緒に打ちたいと希望し長房への入会に繋がり、その評判が評判を呼び現在に至っているといえます。

その他、同好会は内輪の大会をA・Bクラスの2本立てにし、入賞者を2倍にしています。名人戦（リーグ戦）については成績に関わらず対局数の多い者を表彰し、敢闘賞をA・B各3人に差し上げています。

女性教室の概要ですが、前会長池口隆久氏の発案で平成27年6月に開講しました。

▶　入門講座・・6～8月の日曜日計10回。費用1,000円。9月以降継続するものは基礎講座へ、両講座合わせ20名を限度として年度始めに入門講座会員を広報で募集、会場利用費が尽きた時点で1,000円の会費を新たに徴収

▶　講座の進め方・・教本の問題を次々に講師と一緒に解く（講師が1人乃至2人と対座し）。対局しながらコメントする。会員同士が打つ脇から講師が解説

▶　講師・・有段者から級位者まで10数人、当番としての割り振りはないが毎回10人弱が参加

長房同好会は30年が経過し、いわば生れた赤子が親になる年月が過ぎました。発足時からの会員は今年の3月で皆無となりましたが、長い伝統は引き継がれています。これからも同好会は40年、50年に向けて前進していきます。

写真２　東浅川の鯉のぼり